REPORT SHEET OF COIL EDUCATION

NU-COIL by Nanzan University

担当教員名	小野詩紀子　佐藤幸代		所属（学部学科）	国際センター	
実施年度・クォーター	2023 年度　Q3				
授業名	南山	授業名：国際産官学連携 PBL D			
	相手大学	授業名：メリーランド大学　ボルチモア校			
カテゴリ	ベーシック COIL　アカデミック COIL　(PBL COIL)				
パートナー教員名	Tomoko Hoogenboom		相手大学	大学名　メリーランド大学	
参加学生数	南山	１５人	相手大学	８人	
双方の教員・学生が一堂に会しての同期型交流	(1 回)	2 回	3 回以上	なし	
学生同士のみの同期型交流	1 回	2 回	(3 回以上)	なし	
使用言語（複数回答可）	(英語　日本語)　その他言語（　）				
使用ツール（複数回答可）	[Zoom] Facebook [LINE] Skype YouTube Canvas Email WeChat その他（ google drive ）				
交流内容・（概略）	①1 回目の授業のまえに事前オリエンテーションの回を設けて、双方の教員・学生が一堂に会してオンライン上で交流を行った。目的はその後学生同士のみの同期型交流を授業回数分行うので、そのグループ分け、アイスブレイク、日程決めおよび、企業からの説明であった。 ②複数回にわたる学生同士のみの交流については毎週行った。中間発表の課題、最終週の課題をにらんで毎週議論すべきことがあり、それらについてグループ内で話し合った				
交流期間	８週間				
評価方法	学生同士のみの同期型交流については、毎回、コミュニケーションログをグーグルドライブに各グループに提出させ、議論の内容を両教員が把握するように努めた。また、最終回のプレゼンはビデオ録画の形にして提出させた。				
コメント	①の取組は、学生からも評価が高かった。 ②の取組も、なんとか実施することができた。しかし、全ての工程を終えた学生からは、この授業の負荷で 1 単位は少なすぎるというクレームが聴かれた。そのほか、グループにおける人数の差と情報の差から、日本人学生が主導してしまいがちで、米国学生が取り残されるという指摘もあった。 ③1 名コミュニケーションが難しい特性を持つ学生が入っているチームは、最後まで議論をまとめるのに困難を抱えていた。こういったケースにあたった場合の教員のサポートについて、勉強しておく必要性を感じた。				

NU-COIL Support Team
(R 棟２階国際センター事務室)